

## がん検診を受けられる方へ

がんは日本人が多くかかる病気の一つで、死因の上位に位置しています。定期的ながん検診を受診することによって、早期のがんが発見され、がんで死亡する確率が減少することが明らかになっています。がん検診は継続して受けることが大切です。ただし、痛み、しこり等の自覚症状がある場合は、検診の機会を待たず、医療機関を受診してください。

### (検査の不利益について)

がん検診には限界があり、100%がんを発見できるわけではありません。がんであっても、異常なしと判定されることがあります(偽陰性)。また、がんが無くても精密検査が必要と判定される場合もあります(偽陽性)。検診にはこのような不利益を生じることがあります。

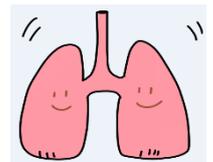
### (検査後の精密検査について)

がん検診の結果が要精密検査の場合、所定の精密検査を必ず受けてください。要精密検査となっても必ずしもがんにかかっているわけではありませんが、がんを含む疾患の可能性があるため必ず精密検査をご受診ください。精密検査の内容については、下記の検診の項目をご確認ください。

### 【肺がん検診】

- 肺がんは日本のがんによる死因の上位に位置しています。
- 加熱式たばこを含む喫煙は肺がんの発生率を上昇させる要因となります。
- 肺がんの精密検査の内容は以下の通りです。
  - ・胸部 CT
  - ・気管支鏡検査(口や鼻から喉を通して気管支鏡を挿入し、気管支等の観察や組織の一部を採取する検査)

※喀痰細胞診で要精密検査となった場合、再度の喀痰細胞診検査の受診は精密検査として不適切です。



### 【大腸がん検診】

- 大腸がんは近年患者数が増加しており、がんによる死因の上位に位置しています。
- 大腸がん検診精密検査は以下の通りです。
  - ・全大腸内視鏡検査(肛門から内視鏡を挿入し、大腸の観察や組織の一部を採取する検査)。
  - ・S状結腸内視鏡検査+注腸エックス線検査(全大腸内視鏡検査が第一選択ですが、困難な場合は大腸の途中のS状結腸までの内視鏡検査と注腸エックス線検査を組み合わせることもあります)

※再度の便潜血検査は精密検査として不適切です。



### 【胃がん検診】

- 胃がんは50歳以降に罹患する人が多く、がんによる死因の上位に位置しています。
- 胃がんの精密検査は以下の通りです。
  - ・胃内視鏡検査（口や鼻から内視鏡を挿入し胃の中の観察や組織の一部を採取する検査）



### 【乳がん検診】

- 乳がんは女性におけるがんによる死因の上位に位置しています。
- 乳がん検診精密検査は以下の通りです。
  - ・マンモグラフィの追加撮影
  - ・超音波検査
  - ・穿刺吸引細胞診、針生検等（しこり等の病変部に直接細い針を刺し、注射器で吸い出して細胞を観察する検査）

### 【子宮がん検診】

- 子宮がんは罹患数が20代後半から増え、40代がピークになります。HPVウイルスに罹患することで発症するとされています。
- 女性のがんにおける割合が比較的高く、近年増加傾向にもあります。
- 子宮がん検診精密検査は以下の通りです。
  - ・コルポスコープ下の組織診（コルポスコープという膣や子宮の頸部の表面を拡大する顕微鏡を用いて、細かい部分の観察や組織の一部を採取する検査）
  - ・HPV検査（細胞を採取して、子宮頸がんの原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）に感染しているかを調べる検査）

### （個人情報取り扱いについて）

市町村が実施する検診の結果は、検診の精度管理のために市町村と実施機関が保管し、精密検査が必要となった方の精密検査結果や治療の受診状況を把握します。一次検診と精密検査実施医療機関が異なる場合は、検診機関が精密検査結果を共有します。また、精密検査を未受診の方へは受診勧奨を行う場合があります。こうした個人情報の取扱いは、個人情報保護法及び市個人情報の保護に関する法律施行条例等の関係法令に基づき適切に行います。ご理解とご協力をお願いします。



お問い合わせ先

茨木市健康医療部健康づくり課（茨木市保健医療センター内）

〒567-0031 茨木市春日3丁目13番5号

電話：072-625-6685 FAX：072-625-6979